

# カンジダ膣炎

- カンジダは真菌の一種で、もともと正常皮膚や腸管内に存在する常在菌です。
  - しかし、膣内の抵抗力が弱ったとき、例えば妊娠、感冒など、また抗生剤の使用により乳酸桿菌が減少したときなどに増殖し、白色帯下やかゆみの原因となります。
  
  - 治療は膣錠の挿入、必要に応じ外陰部への外用薬(軟膏あるいはクリーム、ローション)の塗布となります。
  - 膣錠の使用法ですが、1日1回挿入を1週間連日、あるいは週1回挿入を1~2回行ないます。
  - 症状によりますが、症状の改善までは1~2週間を必要とします。
  - 再発を繰り返す場合には、内服薬(フルコナゾール~ジフルカンカプセル150mg)の単回内服による腸内の除菌が有効です。ただし内服治療は妊娠中の方には禁忌となっています。
- ✓ 膣錠や外用薬による治療を行なった場合。
1. 治療中の性交渉は原則として避けてください。
  2. 外用薬をつけ始めの際は、ぴりぴりした感じがあるかもしれませんが、心配はいりません。
  3. 入浴時は外陰部などをよく洗い、石鹸を用いずにお湯で良く洗い流すことが大事です。下着は通気性の良いのものが勧められます。